

第14回全国障害者生活支援研究セミナー

意思決定と支援Ⅲ

～実践からみた「意思決定支援」～

日時：2013年2月16日（土）～2月17日（日）

会場：新宿NSビル NSスカイカンファレンス（30F）
NS会議室（3F）

（東京都新宿区西新宿2-4-1）

主催：特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会（サポート研）

ホームページ：<http://support.ryoiku-c.com/>

<全国障害者生活支援研究会（サポート研）事務局>

〒210-0848

神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608

TEL/FAX 044-271-8788

E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp

担当 村尾・加藤

第14回全国障害者生活支援研究セミナー開催要項 意思決定と支援Ⅲ ～実践からみた「意思決定支援」～

●開催要項

「保護の客体から権利の主体へ」の理念による国連・障害者権利条約の批准に向けた国内法の整備を目指した障がい者制度改革推進会議や総合福祉部会などでの熱心な議論により、この間に制定・改正された法律には、障害のある方たちの生活に関わる重要な新たな視点が多々組み込まれました、障害者の定義の見直し、共生社会の実現、差別の禁止、障害者虐待の防止、……。障害者基本法の目的規定も見直されました。そして、相談支援・障害福祉サービスや行政に「意思決定支援」が義務づけられました。

全国障害者生活支援研究会（通称「サポート研」）は、これまで一貫して、本人主体の支援のあり方を追求してきました。そしてここ数年来は、「意思決定」を支援することが、権利擁護という視点だけではなく、本人主体の支援を実現する前提であり、支援の本質であることを主張してきました。こうしたことから、法律にこの「意思決定支援」という用語が取り入れられたことは一つの大きな成果であると思うところです。しかし、その中身や具体的な支援方法などには、まだまだ明らかになっていない部分が多く残されています。

私たちは「意思決定支援」について、当事者と支援者との間の双方向の意思交換のプロセスを通じて行われる、本人を中心に据えた支援のあり方であること、障害のある方たちの日々の暮らしの中での「選択」においては、その選択肢の立て方一つで、つまり支援者からの情報提供のありようで、一人ひとりの「意思決定」は大きく左右されてしまう関係性があること、本人の表面的には弱いけれど精一杯の自己表現を支援者がキャッチできないがために、支援する側が本人の「決定」を無視している場面があること、支援者の意思が本人の意思に置き換わると、大きな権利侵害にもつながる危険性があることなどを確認してきました。

このような状況の中で、今年の研究セミナーのテーマを、三たび「意思決定と支援」としました。

1日目は、現在さまざまに取り上げられている「意思決定支援」のアウトラインを確認した上で、法律的側面から国連・障害者権利条約と意思決定支援の関係について講演をしていただきます。続いて、相談支援においてどのように意思決定を支えることが求められているのか、具体的な課題も含めて講演をしていただきます。さらに、日々の支援実践に携わるメンバーをシンポジストとして、実践場面における「意思決定支援」を語っていただき、課題と展望を参加者の皆さんとともに考えたいと思います。

2日目は5つの分科会に分かれて、それぞれのテーマからこの全体テーマに迫っていきます。

今激動の時代の中で、障害者支援の本質について真正面から取り組んでいる当研究会の、年に一度の研究セミナーです。ぜひ、多くの方にご参加いただけることを心から願っております。

○主催

特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会（サポート研）

○後援（予定）

財団法人日本知的障害者福祉協会／日本障害者協議会／社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会／社会福祉法人東京都社会福祉協議会／東京都障害者通所活動施設職員研修会／特定非営利活動法人DPI日本会議／全国社会就労センター協議会／社団法人全国肢体不自由児・者父母の会連合会／特定非営利活動法人全国精神保健福祉会連合会／財団法人日本障害者リハビリテーション協会／社団法人日本自閉症協会／きょうされん／日本障害フォーラム（JD F）／特定非営利活動法人東京都発達障害支援協会／日本精神遅滞教育研究会／（社）日本自閉症協会／全国自閉症者施設協議会

○参加者

障害者の生活支援にかかわる支援者の方 障害当事者とご家族の方 テーマに関心のある方
（手話通訳など何らかのサポートが必要な方は、申込み先までご連絡ください）

○募集定員

300名（2日目の分科会につきましては、各室の最大収容人数に達した段階で締め切らせていただきます）

○参加費（参加費・資料代）

【両日とも参加】正会員 10,000 円 情報会員 11,000 円 その他 12,000 円(学生 6,000 円) 懇親会費別途 6,000 円
【1日のみ参加】正会員 6,000 円 情報会員 6,500 円 その他 7,000 円(学生 3,500 円) 懇親会費別途 6,000 円

○申込締切

2013 年 1 月 18 日（金）。各分科会が定員になり次第締め切ります。総定員 300 名。

○申込受付

参加申し込みは別添申込用紙にて、京王観光調布支店まで郵送または F A X にてご送付下さい。

申し込み	京王観光 調布支店（担当：大野） E-mail t.ono@keio-kanko.co.jp
問合せ先	〒182-0024 東京都調布市布田 3-1-7 池田ビル5階 TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321

○日 程・会 場・内 容

◎ 1 日 目 2013 年 2 月 16 日（土）

9:30~10:00	10:00~10:10	10:10~11:00	11:00~12:30	13:30~14:30	14:45~17:00	18:00~20:00
受 付	挨拶	課題提起	講演①	講演②	シンポジウム	懇親会
新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B（30F）						ルーム3

●全体会（10:00~17:00）

◇会 場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B（30F）

東京都新宿区西新宿 2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755

（29F・30F専用シースルーエレベーターにて30Fへお越しください。他のエレベーターは不可。）

◆開会挨拶（10:00~10:10）

赤塚 光子（当会会長）

◆課題提起（10:10~11:00）

「意思決定支援を巡る議論の整理と課題」

柴田 洋弥（当会顧問）

◆講演①（11:00~12:30）

「国連障害者権利条約批准と成年後見制度の見直し…意思決定支援の視点から」

池原 毅和（弁護士）

◆講演②（13:30~14:30）

「相談支援と意思決定支援」

門屋 充郎（日本相談支援専門員協会代表）

◆シンポジウム（14:45~17:00）

「支援の実践における意思決定支援」

シンポジスト： 清水 明彦（西宮市社会福祉協議会・兵庫）

石川 恒（かりいほ・栃木）

小林 博（藤沢育成会・神奈川）

助言者： 門屋 充郎（前掲）

コーディネーター： 柴田 洋弥（前掲）

●懇親会（18:00~20:00）

◇会 場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ルーム3（30F）

◎2日目 2013年2月17日(日)

9:00~9:30	9:30~12:00	13:00~15:30
受付	分科会	分科会
新宿NSビル NS会議室 3-E、3-G、3-H、3-K、3-N、3-M		

●分科会(9:30~15:30)

◇会場 新宿NSビル NS会議室 3階会議室(3-E、3-G、3-H、3-K、3-N、3-M)
 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755
 (2日目の会場へは、エスカレーター又は低層階用エレベーターでお越しください。)

分科会1: 3-M会議室 分科会2: 3-N会議室 分科会3: 3-G会議室
 分科会4: 3-H会議室 分科会5: 3-K会議室 事務局: 3-E会議室

※分科会は、後掲「各分科会のテーマ及び要旨」をご覧のうえ、いずれか一つをお選び下さい。

※会場は変更になる場合がございます。その際は、当日までにご案内いたしますのでご了承ください。

○セミナー事務局

<全国障害者生活支援研究会(サポート研)事務局>

〒210-0848 神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608 TEL/FAX 044-271-8788
 E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp 担当 村尾・加藤

○会場アクセス

新宿NSビル

JR線・京王線・小田急線・東京メトロ丸の内線 新宿駅 「南口・西口」より徒歩7~8分
 都営地下鉄線(新宿線)・京王新線 新宿駅 「新都心口」より徒歩約6~7分
 都営地下鉄線(大江戸線) 都庁前駅 A3出口 より徒歩約3~5分

○会場周辺案内図



※ JR新宿駅南口より地下道ワンデーストリートを使いますと雨に濡れずにお越しになれます。

○各分科会のテーマ及び要旨

分科会1 本人の思いを聴く

◆「本人の声を聴く 本人の思いに寄り添う支援」

今日障害者福祉制度をめぐるのは、多くの課題を積み残したまま、障害者総合支援法が施行されることとなりました。しかし、障害当事者を主体とした支援を実践することは、制度のあり方に関わらず重要なことです。その支援の根っここのところでは、支援者が本人の思いをいかに聞き、受けとめて、本人とともにいかに形にするかということが、問われています。

分科会1では、毎年、グループホームや就労支援、生活介護などのサービスを利用する障害当事者を招いて自分の生活や仕事、将来への希望や支援者に対する思いなどを語っていただき、参加者と意見交換を行うことを積み上げてきました。私たち支援者は日頃の支援において、利用者本人の話を聴く機会を十分に持ち得ているでしょうか。ここで言う「本人の声を聴く」という経験は、参加者が障害当事者との関わりを見直し、支援のあり方に新たな気づきをもたらす機会となっています。

さらに、今回の分科会の後半では、「本人の声を聴く、本人の思いに寄り添う支援」という観点から、日頃感じている支援の課題について、参加する皆さんが事例を持ち寄り、ディスカッションを行います。1日目の全体会のテーマ「意思決定の支援」にも関連していますが、本人の思いに寄り添った支援のあり方について、皆さんの現場の支援の取り組みや悩みを話し合いながら深めていきます。

- 9:00 受付開始
- 9:30 趣旨説明
- 9:40 当事者2人の話（本人＋支援者）を聞く
- 11:15 グループディスカッション
- 12:00 休憩
- 13:00 グループディスカッション
- 15:30 終了

分科会2 生き難さへの支援

◆「生き難さはどう向き合うか」

生き難さへの支援を研究テーマに活動している分科会2では、昨年度に引き続き「生き難さはどう向き合うか」をテーマに今年のセミナーを企画しました。これまで障害者といえば、一般的にいわれる3障害（知的障害、身体障害、精神障害）の手帳を持っている方たちのことを指してきましたが、ここ数年、谷間の障害者とされてきた難病や発達障害の方たちを法制度上の障害者の範囲と捉える動きが出てきたこともあり、「障害」の概念それ自体が大きく揺らいでいることは皆さんもご存知のことと思います。そうした中、改めて「障害のある方の地域での生活を支援すること」の原点はどこにあったのかを考えたとき、そこにはあらかじめ「障害者」と呼ばれる一群がいたわけではなく、何らかの社会的なハンディキャップを有している人たちへの支援実践の中で、対象者を〇〇障害、〇〇障害と規定するフレームが出来上がっていったものと思われます。また、さまざまな場面で「障害者福祉」という枠組みが人々の間に意識されればされるほど、「障害者」という一群が一般社会とは別個のフレームの中に存在しているかのような「錯覚」が生じてしまうことも意識しなくてはなりません。

私たちはここ数年間の研究活動で、従来の障害者福祉からの支援を受けずに生きてきた方たち（受刑者、ホームレス・・・）の中に本来、多くの支援が必要な方たちが明らかに存在しているという現実を知ることとなりました。そして私たちは、これまでの障害者福祉の枠を意識的にはみ出し、「人」が社会で生きていく際の「生きにくさ」をどのように受け止め、どのように支援していくことができるのかを中心にすえて研究活動を進めてきました。

今回のセミナーでは、まず、激しい問題行動や社会的な逸脱行動が原因で地域や施設で暮らすことが困難になった障害者を受け入れている「かりいほ」の施設長である石川恒さんと、貧困やDV等で地域での生活が困難となった女性のための社会福祉施設である婦人保護施設の田口道子さんのお二方からそれぞれの支援現場で「生き難さ」とどう向き合ってきたのか、という実践をお聞きます。午後はこの分科会の運営委員でもある赤平氏との鼎談を通じて、障害者福祉の垣根を越え、生き難さとの向き合い方をフロアの皆さんと共にじっくり考え合う機会をつくりたいと考えています。どうぞふるってご参加ください。

- 9:00 受付開始
- 9:30 趣旨説明
- 9:45 講演1 石川 恒 (社会福祉法人紫野の会 かりいほ施設長)
- 10:45 講演2 田口 道子 (社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 いこいの家施設長)
- 12:00 休憩
- 13:00 鼎談「生き難さとどう向き合うか」
石川 恒 (前述) 田口道子 (前述) 赤平 守 (東京都地域生活定着支援センター所長)

分科会3 エピソード記述

◆「本人の視点に立つ」

サポート研エピソード記述研究会ではこれまで「支援の源泉を求めて」という副題を設けて『エピソード記述』の提唱者である鯨岡峻先生をお迎えし、鯨岡先生の講義をいただき、次に参加者からの支援の実践についてのエピソードをめぐる議論を展開してきました。

私たちがなぜこのような研究会を継続してきたのかと言えば、支援とはなにか、一般的にはなく具体的にひとりの人にとってより良い支援とはなにかを求めるからです。私には支援について分からないことが多いのです。私は自分の行う支援を絶えず見直していくことが必要だと思っています。支援者が良いと思う支援から本人は苦しみを抱えていないでしょうか。支援は実践という坩堝の中にあり、良いと思っても新たな発見から揺り戻しが起こります。支援者は実践をより深く見ていかなければなりません。必要なことは実践とそれを深く見つめる思考の繰り返しです。それにより何かしらの気づきが起こり、発達を妨げていたものが理解され、本人が回復していくこともしばしばあります。そのためには支援者として自分の行っている支援をどこまで考え抜くことが出来るかです。しかし、その考える対象である実践や人をどうとらえれば良いのでしょうか。実践は時間が経つと次第にその鮮度を失っていきます。

『エピソード記述』という試みは生ものである実践をとらえ、見つめる手段ではないでしょうか。私たちの支援は本人の主観、思いを知るところから始まります。そして支援をしている私もまた一つの主観、思いでつくられた存在です。本人は決して客観的な視点からものを見ているわけではありません。書き手である私の主観に映る相手の主観、私の視点から見える本人の見えるものを描くことが『エピソード記述』というものではないでしょうか。『エピソード記述』を書き、推敲し、読み重ねることで私は徐々に私とその人との主観の意味とそのつながりを知ることが出来ます。書き手が描くエピソードは書き手と本人とのあいだに成立しているお互いに共有される視点を示すのではないのでしょうか。報告されるエピソード記述からは年を追うごとに深まりを感じます。

今年度のサポート研研究セミナーエピソード記述研究会は、鯨岡峻先生（中京大学）をお迎えして行います。

- 9:00 受付開始
- 9:30 趣旨説明 金沢 信一 (サポート研)
- 9:45 講演 「人が人をわかるということ ～エピソードを記述する・読む意味を考える～」
講師：鯨岡 峻 (中京大学教授)
- 11:30 質疑応答 進行：加藤 啓一郎 (ワークセンター豊新・大阪)
- 12:00 休憩
- 13:00 エピソード報告と議論 進行：坂田 晴弘 (国分寺市障害者センター・東京)
スーパーバイザー：鯨岡 峻 (前掲)

15:15 まとめ 安藤 真洋（社会福祉法人武蔵野・東京）

15:30 終了

全体司会：鈴木 美和（伊勢崎福祉作業所・群馬）

分科会 4 行動障害

◆「行動障害はなぜ生じ、私たちはどう関わればよいのか ～行動障害のある人を支援する基本姿勢～」

パニックや自傷・他害・強迫的こだわり等の行動を示す人は非常に強い不安や葛藤、いらだちの中におかれていると想像できます。そのような精神状態にある人と正面から向き合う中で、支援者自身がその強い負の情動に巻き込まれ、行動障害を示すご本人と同じように不安やいらだちを覚えたという経験のある支援者は少なくないのではないかと思います。どんなに理性的で優しい人格を持った人でも、他者の強い負の情動に巻き込まれた時には適切な関わりができなくなってしまう事は十分起こり得ることです。こうした中で過剰な行動制限による人権侵害が生じたり、逆にそうした事を恐れるあまり自傷や他害を放置（ネグレクト）して事故・怪我につながったりする恐れもあります。行動障害を示す相手との関係が親密であればあるほど、情動が共鳴しやすく負の情動に巻き込まれる可能性は強くなります。しかし、その事を全て否定的に捉えていては、ご本人と親密に同じ目線で正面から向き合うという事を避ける傾向が強まり、対等な人間関係を築いていく事が難しくなります。

行動障害のある人を支援するには、このようなリスクや困難性があることをしっかり心に留め、人権侵害や虐待に至らないよう必要な措置を怠ることはできません。それと同時に行動障害の背景にある本人の不安や苦しみを理解し、支援者との安心できる人間関係を築いていく必要があります。そのために私たち支援者が備えておくべき専門性や支援者としての基本姿勢について、行動障害研究会ではこれまでも数々の実践例を通して学んできました。そして、本人の立場に立った適切な理解と支援があれば、激しい行動障害のある人も必ず落ち着かれることが実証されています。

今回は行動障害が生じる原因や背景、及び理解と支援の視点について、岩崎隆彦氏（姫島こども園園長）より基本から分かりやすく解説して頂きます。そして、参加される皆様には事前アンケートをお願いし、そのアンケートの内容から、「実際の支援における支援者の感じる困難や疑問」について、Q&A形式で講師に助言していただくと共に、参加していただいた皆様からもご意見を伺います。最後に少人数でのグループワークを行い、「今日の講演とアンケートへのQ&Aで気づいたこと、それでも難しいと思えること」をテーマに議論したいと思います。

講演や事例発表を“聞く”だけの研修ではなく、参加された方全員が自らの「支援の実際（手応えと難しさ）」を率直に話し合い共有できる分科会にしたいと思います。行動障害について真剣に考え、アンケートやグループワークに主体的に協力していただける方の参加をお待ちしています。

9:00 受付開始

9:30 趣旨説明 辻田 剛己（さつき学園・静岡）

9:40 講演『行動障害はなぜ生じ、私たちはどう関わればよいのか』講師：岩崎 隆彦（姫島こども園園長・大阪）

11:30 質疑応答

11:45 昼食

12:45 Q&A 『行動障害のある人への支援～事前アンケートから』

13:30 グループワーク 『支援の実際～支援者が感じる困難や疑問、そして手応え』

進行：荒木 大輔（デイセンター山びこ・東京）

（途中休憩あり）

15:00 まとめ 赤塚 光子（サポート研会長、元・立教大学教授・東京）

15:30 終了

分科会5 サポートシステム

◆「障害者総合支援法の残された課題と個別生活支援の展望」

障害者総合支援法は、「意思決定支援への配慮」を行政・事業者に義務づけ、また重度訪問介護を知的障害者に拡大することを定めました。

知的障害者等への意思決定支援については、一般的に、入所施設やグループホームのような集団的な支援形態よりも、より制約の少ない個別生活支援の方が適していると考えられます。その点から見ますと、知的障害者にも重度訪問介護が適用される事は、大きな可能性を開くものと期待できます。

しかし重度訪問介護は身体障害者自身がヘルパーを管理することを想定して整備されてきました。重度訪問介護が「意思決定支援」を担うためにはどのような課題があるのか、行動援護との関係をどう整理するのか、また今回も自立支援給付に含まれなかった移動支援との関係、グループホーム（従来のケアホームを含む）におけるこれら訪問系サービスの併用の在り方など、様々な課題が残されています。

また「総合福祉法骨格提言」に示された改革案の大半は3年間の検討とされ、その中には、① 常時介護を要する障害者等に対する支援、②障害者等の移動の支援、③障害福祉サービス、④支給決定、⑤意思疎通支援の在り方などが含まれています。また意思決定支援の在り方検討や小規模入所施設の検討も加えられました。

第5分科会では、これらの総合支援法の残された課題と、重度訪問介護・行動援護・移動支援・居宅介護等を活用して「意思決定支援」に配慮しつつ個別生活支援を具体化するに当たっての課題や展望について、講演と現場実践者のパネルディスカッションを通して、参加者の皆さんと共に考えてみたいと思います。

多くの皆様の参加を呼びかけます。

【午前の部】 司会 明石 洋子（社会福祉法人あおぞら共生会・神奈川）

9:00 受付開始

9:30 課題説明 柴田 洋弥（サポート研顧問・東京）

9:45 講演「総合支援法の残された課題と個別生活支援の展望」

講師 尾上 浩二（DPI 日本会議・障害者政策委員会委員）

11:30 休憩

【午後の部】 司会 藤内 昌信（だれもがともに小平ネットワーク・東京）

12:30 パネルディスカッション「意思決定支援を含む個別生活支援の展望」

氏田 照子（日本発達障害ネットワーク・障害者政策委員会委員）

清水 明彦（西宮市社会福祉協議会・兵庫）

中西 昌哉（ベテスタの家・京都）

コメンテータ 尾上 浩二（前掲）

※会場からの積極的な発言に期待します。特にヘルパーを利用して個別生活支援を行っている、又は予定している事例等がありましたら報告してください。

15:30 終了

第14回 全国障害者生活支援研究セミナー

セミナー・懇親会参加及び宿泊申し込みのご案内

会議の参加及び宿泊の申し込みは、京王観光株調布支店が代行させていただきます。
お申し込みは別紙申込書で郵送又はFAXにてお願い致します。

- ★ セミナー日程 2013年2月16日(土)～2月17日(日)
- ★ セミナー会場 2月16日(土) 新宿NSビル スカイカンファレンス ホールA・B
2月17日(日) 新宿NSビル NS会議室
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル TEL 03-3342-3755
- ★ 参加費 【両日参加】正会員 10,000円 情報会員 11,000円
一般 12,000円(学生6,000円)
【1日のみ】正会員 6,000円 情報会員 6,500円
一般 7,000円(学生3,500円)
- ★ 懇親会 費用 6,000円 場所:新宿NSビル スカイカンファレンス ルーム③
- ★ その他 遠方からのお越しで宿泊希望の方は宿泊手配を承ります。
2013年2月15日(金)～2月16日(土)を含む2泊

ご宿泊施設

新宿ワシントンホテル本館 (新宿駅西口駅徒歩約8分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約3分</small>	〒160-8336 東京都新宿区西新宿3-2-9		TEL 03-3343-3111 FAX 03-3342-2575	
	シングル	@13,000円	ツイン	@9,000円
京王プレッソイン新宿 (新宿駅西口駅徒歩約9分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約5分 *朝食は簡易朝食(パン・コーヒー・ジュース)になります</small>	〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-4-5		TEL 03-3348-0202 FAX 03-3348-0203	
	シングル	@9,500円	ツイン	設定なし

ご宿泊取消料のご案内(宿泊日を基準とします)

取消日	30～15日前	14～08日前	07～04日前	03～02日前	前日	当日
取消料率	10%	15%	30%	50%	80%	100%

★ お申し込み方法

セミナー及び宿泊のお申し込みは、京王観光株調布支店あて別紙申込書で郵送又はFAXにて
1月18日(金)までにお申し込みください。参加受付後、参加書類及び費用振込み案内を
2月上旬頃送付させていただきます。

★ お問い合わせ先

〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階

KEIO 旅 京王観光 京王観光株調布支店

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当:大野

営業時間:月～金曜日 9:00～18:00(土・日・祝日はお休みです)

第14回 全国障害者生活支援研究セミナー申込書

申込日： 年 月 日

お申込締切日：2013年1月18日（金）必着


★ ご注意：申込書のコピーをお控えとしてお取下さい。

都道府県名		勤務先				
参加書類等 送付先	〒 _____					
		TEL	()	FAX	()	
参加者氏名（ふりがなをふってください）		役職	区分	参加希望日	希望分科会	懇親会
ふりがな	男・女		正会員	2月16日（1日目）のみ	1 ・ 2 ・ 3 4 ・ 5	参加 ・ 不参加
			情報会員	2月17日（2日目）のみ		
			一般学生	両日とも参加		
ふりがな	男・女		正会員	2月16日（1日目）のみ	1 ・ 2 ・ 3 4 ・ 5	参加 ・ 不参加
			情報会員	2月17日（2日目）のみ		
			一般学生	両日とも参加		
ふりがな	男・女		正会員	2月16日（1日目）のみ	1 ・ 2 ・ 3 4 ・ 5	参加 ・ 不参加
			情報会員	2月17日（2日目）のみ		
			一般学生	両日とも参加		

宿泊希望	宿 泊 日		希 望 ホ テ ル		部 屋 タ イ プ
有 無	2/15(金) (前泊)	2/16(土) (当日泊)	第一希望： 第二希望：		1・シングル 2・ツイン (どちらかに○印をお付け下さい)

★ 各ホテルの部屋数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい

★ 上記申込書に必要事項をご記入の上、下記あてに郵送又はFAXにてお申し込み下さい。

お申し込み先  京王観光 京王観光(株)調布支店 〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当：大野

営業時間：月～金曜日 9：00～18：00（土・日・祝日はお休みです）